

市議会報告

※ 本報告書は、令和7年第3回市議会定例会（令和7年9月5日～10月8日）本会議及び決算等審査特別委員会における、教育行政に関係する質疑の概要について総務課が取りまとめたものである。

※ 正式な議事録は、後日、議会において作成され、市議会ホームページで公開される。

1. 代表質疑（9月11日、12日）

● 自由民主党 加藤 和彦 議員

＜学校施設整備国庫補助不採択への対応について＞

Q. 今年度予算において整備を進めることとしていた事業について、国からの交付金が不採択とされたことに伴う影響と今後の対応について伺う。

A. 《教育長》不採択となった事業のうち、前年度からの継続事業については、工事を中断することなく進めているが、最終的に国からの補助金を得られない場合には、市債や一般財源による財源の工面をせざるを得ず、本市財政への影響が懸念されるところである。

また、今年度から着手予定であった長寿命化改修工事に関しては、すべての事業が不採択とされたことにより、今後の改修スケジュールの見直しをも余儀なくされるなど、その影響は非常に大きいと考える。

こうした非常に厳しい国からの採択結果を受け、この間、市長から直接、あるいは指定都市の共同により、国に対して要望活動を行ってきた。現在、4次申請に向けた準備を進めているところだが、地方自治体の事業量に見合った十分な財源を確保し、確実に事業採択を行うよう、引き続き、様々な機会を捉えて国に対して働き掛けてまいりたい。

● 市民フォーラム仙台 沼沢 しんや 議員

＜一人一台端末の更新における5年間の総括・活用状況等について＞

Q. 一人一台端末導入から5年が経過し、更新の時期を迎えるが端末を活用した本市におけるICT教育について、総括的な評価と今後の取り組みの方向性について伺う。

A. 《教育長》令和3年度より本格的な端末や教育用クラウドの活用を開始するとともに、教員研修やソフトウェア等の充実を図ることで、授業等における端末の活用は定着しているものと考えている。

また、令和5年度には「仙台市学校教育情報化推進計画」を策定し、端末の活用状況や児童生徒の情報活用能力、教員のICT活用指導力等を定期的に把握しているが、着実に指標が向上しており、ICT教育の推進による効果が出ているものと考えている。

引き続き、本市ICT教育の計画的な推進に努めるとともに、生成AIの普及など、ICT教育を取り巻く環境も変化する中、今後の本市学校教育におけるICTの効果的な活用について対応を検討していく必要があると考えている。

2. 一般質問（9月16日、17日、18日）

● 自由民主党 猪又 隆広 議員

＜学びの多様化学校の設置と検討体制等について＞

Q. 市長は、今回の市長選で学びの多様化学校の中学校の設置を公約に掲げたが、市長としての学びの多様化学校への想いと具体的に教育局に対し、中学校設置に向けてどのような指示を行っており、どこまで進んでいるのか伺う。併せて、どのような体制で進め、どのようなスケジュールで進めていくのかも伺う。

A. 《市長》「こどもが輝くまち」の実現に向け、このまちの未来を担うすべてのこどもたちが、希望を持って自分らしく歩んでいくことができる、それをしっかりと支えていくことが重要であると考えている。

そのためにも、様々な理由から学校に通うことに困難さを抱えていたとしても、こどもたち一人ひとりが自らに合った学びの場を選ぶ環境が必要であるとの思いの下、多様な学びの新たな選択肢となる「学びの多様化学校の中学校の設置」を公約とした。

この学校の設置については、現在、他都市における取組状況の調査のほか、設置の規模や場所など、どのような学校にしていくのか、本格的な検討に着手したところである。

今後、ロードマップを策定し、この推進に必要な検討体制も整えながら、新たな学びの場の設置に向けて、鋭意取り組んでまいりたい。

● 公明党仙台市議団 小田島 久美子 議員

＜心の健康観察の活用状況と評価について＞

Q. 一人一台の端末に心の健康観察が導入されているが、支援ニーズが高い児童生徒への二次スクリーニングの状況と対応、メンタルヘルス不調に関連する活用状況とこれまでの心の健康観察事業の評価について伺う。

A. 《教育長》昨年度は、20校の市立学校において、こどもたちの心身の状態把握や、支援が必要な児童生徒への早期対応を目的として、一人一台端末を活用し、日々の気持ちの変化を晴れや雨といった天気で表す「心の健康観察」に取り組んでいる。

導入校からは、「見た目では分からない、こどもの状態を把握できる」といった話や、「会話のきっかけとなり、教員から声掛けしやすい」といった話など、児童生徒の状況把握や支援に効果的な活用が図られており、他の学校に対してその効果を周知してまいりたい。

● 市民フォーラム仙台 鈴木 すみえ 議員

＜特別支援教育推進に関する成果と今後について＞

Q. 市内の小中学校への巡回指導や相談支援の実績、教職員研修や専門性向上への貢献、通常学級での特別支援教育推進への支援、インクルーシブ教育実現に向けた取り組みについて、具体的な成果と今後の拡充方針について伺う。

A. 《教育長》鶴谷特別支援学校は、小中学校への巡回指導を令和6年度において44回、相談支援を39回行うなど、学校現場における指導技術の向上につなげているほか、市内の各学校の児童生徒がお互いの多様性を認め、相互理解を深めるための場のコーディネートもしているところであ

る。

今後、これまでの取り組みの充実を図るとともに、指導技術の研修動画の配信といった新たな方策も加えながら、本市の特別支援教育を推進してまいりたい。

3. 決算等審査特別委員会・分科会（9月24日、25日、29日）

● 仙台維新 仁平 覚子 議員

＜いじめ対策の見解と今後の方向性について＞

Q. いじめ対策について、現時点での見解と今後の方向性を伺う。

A. ≪教育長≫いじめ対策については、本市の最重要課題の一つとして、いじめ対策専任教諭や児童支援教諭の配置、スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーなどの専門職の配置拡充や相談支援の実施など、いじめへの組織的な対応力向上に取り組んでいる。

また、SNSによる相談事業やアンケート調査の実施など、こどもたちが声を上げやすい環境づくりを進めながら積極的にいじめを認知するなど、児童生徒が安心して学校生活を送ることができるよう、施策や体制の充実を図ってきている。

いじめへの対応については、事案が深刻化しないように、早期に適切に対処することが肝要だが、社会環境が多様化・複雑化する中、学校だけでは解決が難しい事案が増えている状況である。こうしたことから、事案が深刻化する前に、学校に複数の専門家を派遣する「学校支援チーム」といった新たな取り組みの検討なども行っているところである。

引き続き、児童生徒が安心して健やかに成長することができるよう、いじめ対策の効果的な推進を図ってまいりたい。

● 自由民主党 橋本 啓一 議員

＜魅力ある職場づくりについて＞

Q. 教員を目指す方が仙台市を選び、本市のこどもたちの教育環境の充実に向けて取り組みをさらに推し進めていただきたい。教育長の意気込みを伺う。

A. ≪教育長≫全国的に教員のなり手不足が課題となる中であっても、できるだけ多くの教員志望者に仙台市を受験先として選んでいただく必要がある。

就労環境の充実を図ることは、魅力ある職場づくりを進めるうえで重要であると認識しており、給特法改正などを踏まえた処遇改善も着実に進めていかなければならないと考えている。

また、初任層に関する研修や心のサポートなどを教員志望者に向けて周知・広報していくことが、仙台の次代の教育を担う教職員の確保に重要な視点だと考えており、鋭意取り組んでまいります。

4. 決算等審査特別委員会・全体会（10月2日、3日、6日）

● せんだい自民・参政の会 跡部 薫 議員

<幼保小連携について>

Q. 小学校入学後は教科中心の学びになりがちである。接続の機会を大切にするために、学校側から子供関連施設に積極的に声をかけ、対面での情報交換の機会を作り、接続・連携した協力体制づくりをリードするよう望むが認識を伺う。

A. 《教育長》幼保小の連携にあたり、学校と幼稚園・保育所等が相互理解に努め円滑な接続を図っていくことが、児童の小学校へのスムーズな適応と健やかな学びにとって重要と認識している。

各学校においては、授業や学校行事に、幼稚園・保育所等の職員やこどもを招待し、交流活動を行うなど、積極的に顔を合わせる機会を設けるなどして工夫をしているところである。

引き続き、各学校と幼稚園・保育所等との連携の様子を研修会で紹介するなど、学区ごとの実態も踏まえた幼保小連携が推進するよう、教育委員会としても、こども若者局とともに取り組んでまいりたい。